

方剂名	効能	生薬組成	
		主治および証	病機 方意
書籍			
表裏双解剤 解表清裏剤 1			
せつこうとう 石膏湯	清熱解毒・発汗解表	石膏 30g・黄連・黄芩・黄柏各 6g・淡豆豉・山梔子・麻黄各 9g 水煎し服用する。	
外台秘要	<p><主治> 裏熱熾盛、表証未解 高熱、無汗、身体痛、目の充血、顔面紅潮、口渴、煩躁、不眠、意識障害、うわごと、皮下出血、鼻出血、舌質が紅、舌苔が黄、脈が滑数など。</p> <p><病機> 表証が消失しないうちに邪が入裏化熱し、裏熱熾盛になって上中下の三焦に充満した状態である。 表証が残っているので無汗、身体痛があり、裏熱が上中下の三焦に充満して高熱、目の充血、顔面紅潮、口渴、舌質が紅、舌苔が黄、脈が滑数を呈する。邪熱が心神を擾乱すると煩躁不眠、意識障害、うわごとがみられ、熱邪が血絡を灼傷すると鼻出血、皮下出血なども生じる。</p> <p><方意> 清熱を主体にして解表を兼ねる。 辛甘、大寒の石膏は透表清熱、除煩に働き、主薬である。瀉火解毒の黄連・黄芩・黄柏・山梔子は黄連解毒湯に相当し、三焦の火毒を清泄すると共に、血熱妄行による出血を止める。辛温の麻黄、淡豆豉は発汗解表して表邪を外解するが、大量の清熱薬に配合することにより表邪を発して裏熱を助長せず、表散することにより鬱熱を外散することができる。</p> <p><参考> 石膏湯は、<傷寒六書>で「三黄石膏湯」と称され、生姜、大棗、細茶が付加されており、「傷寒汗吐下の誤治の後、三焦共に熱し、身目共に痛む」の症候に用いられており、調和營衛、和胃の生姜・大棗と上焦清熱の細茶の効能が加わっている。</p>		